

今年も10000人規模で盛大に開催

玄米酵素は1971年10月の創業。創業者の故・岩崎輝明前会長が、欧米化による日本の食生活の乱れから健康危機を予見し、玄米酵素「ハイ・ゲンキ」の製造・販売を開始、普及を目指したのがスタートだ。

現在その拠点は、札幌本社、東京支社の他、仙台市、名古屋市、大阪市、松山市、福岡市に営業所を次々に開設。海外にも販売店を展開

するまでに成長した。北海道発の健康食品ブランドとしてその名は全国区となっている。

2年前の12年には創業40周年を迎えた同社。その記念祝典で当時副社長だった鹿内正孝氏を社長に据える人事を発表。次なる50周年に向けて鹿内体制をスタート

玄米酵素（本社・札幌、鹿内正孝社長）が第31回全国販売店研修会

研修会を5月25日から2日間に渡り札幌市内のホテルで開催した。創業者の岩崎輝明氏が半年前に急逝。大黒柱を失って初めての大会となったが、創業理念の継承とその経営基盤が少しも揺るがないことを印象づけた。

玄米酵素第31回全国販売店研修会開催

創業精神の継承で、揺るがぬ理念と経営基盤



岩崎イズムの新たな継承へ向けメッセージを発信した鹿内正孝社長

トさせていた。しかし、昨年10月に不慮の事故で岩崎会長が急逝。そんな中で迎えたのが今回の「第31回全国販売店研修会」だった。定期的にこの時期におこなわれる全国販売店研修会

の目的は大きく二つある。一つは、多様なジャンルの著名人や研究者を講師に招き、食や健康に関する最新情報や医学研究の最新情報などを会員が共有すること。もう一つは、懇親会などで

会員相互の絆を深めつつ、玄米酵素の理念である「食改善で真の健康を普及」を改めて確認、実現に向けて邁進することを誓い合うことだ。今回は日本国内を始め世界各地から941人が集結。遠くはカナダやアメリカからも参加し、改めて玄米酵素が世界的規模で普及していることをうかがい知ることができた。

チェンジをテーマに岩崎イズムを継承

今回の研修会のテーマは「Change 43（チェンジ43）」玄米酵素イズムの新たな継承を目指して。

第1日目は午前9時から開始。故岩崎氏と創業当時から苦楽をともにした道見重信コーケン社長が「岩崎輝明の遺志・意志・意思」と題し、開会の挨拶をおこなった。

道見氏は、昭和49年4月

に青年会議所の会合で若き日の岩崎氏と初めて出会ったときから、40年にわたる波乱に満ちた思い出について話し、創業の精神、そして遺志と意志と意思を受け継いだとして、「60万人の愛食者で日本を変えよう」という岩崎氏の思いを受け止めて、新しい時代につなげていきましよう」と力説。会場からは万雷の拍手が湧き起こった。

その後、小林博北海道大学名誉教授をコーディネーターに「FBR A医学シンポジウム」を実施。FBR A（フブラ）とは、玄米を麹菌で発酵させたという意味で、玄米酵素の学術名。また実験腫瘍学・免疫学・細胞生物学を専門とする済木育夫富山大学教授は「玄米の発酵と機能性成分」をテーマに発表。玄米の活性酸素抑制、がん予防の有



今回も国内外から約1000人が集結した全国販売店研修会。立すいの余地がない会場内は終始熱気に包まれ、2日間のさまざまなプログラムが実施された



道見重信コーケン社長



最新の研究を発表したFBRA医学シンポジウム

用性について説いた。
石川消化器内科の院長でもある石川秀樹京都府立医科大学特任教授は、潰瘍性大腸炎臨床研究の第一人者FBRAの潰瘍性大腸炎における有用性について臨床研究をしており、今回はその中間発表をおこなった。現在42人の患者に臨床試験を実施しており、今後も継続すると述べた。
最後に発表した渡邊昌生命科学振興会理事長・日本



コーディネーターの小林博北海道大学名誉教授



講演した和紙デザイナーの堀木エリ子氏

総合医学会会長は、血液病理・疫学・栄養学の権威。「玄米と食養道」をテーマに、がんの自然治癒の症例についての興味深い話を展開した。「根拠づくりを急ぎたい」と今後の課題にも言及した。
休憩をはさみ午後からは、和紙デザイナー堀木エリ子氏の講演。堀木氏は和紙という伝統産業に新しい息吹を吹き込んだとして知られるソリスト（独創する人）。

鹿内社長のメッセージは「次世代への継承」。「我々の仕事を形成しているのは、半分は玄米酵素。そして残りの半分は、家族や仲間の健康を願う愛だ」と熱く語ってスタート。

すべてを受け入れ愛食者60万人を目指す

この後、玄米酵素愛食者の体験談発表があり、研修会もいよいよ終盤、社長メッセージへと続く。

その生き方が書籍に取り上げられるなど話題の人物。「無限の可能性に挑む」で語る前提「での取り組み」と題した講演では、既成概念に縛られず手すぎ和紙による空間演出という独自の境地にたどり着いた自身の経験を披露。「腹の底からのパッションと覚悟があれば、未来は切り開ける」と生きるためのヒントが熱く語られた。

「当社は現在、創業者である岩崎会長を失い大きな転換期を迎えている。しかし私たちはすべてを受け入れ、これから新たな出発をしなければなりません。継承するものがない会社は消滅してしまうが、私たちには玄米酵素による食生活改善で真の健康をお届けするという継承すべき岩崎イズムがある。創業43年。我々は創業者の遺志、理念を継承し、時代の変化に対応するため変えるべきものは変えていく。それが今回の研修テーマである『チェンジ43』で表している」と語った。
また、作家井伏鱒二が中国の五言絶句を訳した「花に嵐のたえもあるさ さらばよ」を引用し、「だからこそ今を大切に縁を大切に実りある人生を生きましよう」と述べると、会場には満場の拍手が鳴り響いた。
メッセージのラストには、

40周年記念式典の際の岩崎前会長の講演シーンを放映。玄米酵素普及にかけた熱い思いを語る場面に涙ぐむ参加者もいた。
1日目は、この後懇親パーティーをおこない終了した。2日目は六つの分科会などが実施され、玄米酵素の普及に向けて会員それぞれの意欲はさらに高まった。今年も盛況に終わった全国販売店研修会、玄米酵素イズムの継承に微塵の揺らぎもなかった。



1983年の本社ビル竣工式典の写真も紹介され岩崎前会長（右）と鹿内社長（左端）の若き日の姿も

道議・道見重信

突然の引退表明



政策通だった道見重信氏

岩崎輝明氏急逝も
引退うながす一因に

道見氏が「今限りで引退したい」との意向を、後援会の関係者に明らかにしたのは、5月21日のこと。

札幌市北區選出、自民党の道見重信道議が、今限りでの引退を突然表明した。選挙は強いし、次もやると見られていただけに、後援会関係者も戸惑いをかくせない。翻意をうながす声も相次いだ。本人の決意は固い。後継者は誰に……

この日、後援会の特別役員会が招集され、連合後援会の3役と顧問、相談役、それと各地区の後援会長、女性部長などざっと60人が

突然のこと、みなびつくり。慰留する声も少なからず出たというが、道見氏の意味は固かった。この場で、後継者選

集められていた。

道見氏の政治団体の代表である加森公人加森観光社長姿もあつた。

連合後援会の3役など数人には、内々に引退のハラを伝えてあつたそうだが、ほかの後援会関係者にとっては、

語った。

「理由は3つです。1つは札幌市議3期、道議2期をや、札幌市長選候補にもさせてもらった。その中で市議時代は行革問題を手がけ、道議としてはフジドリムエアラインズ航空の誘致を実現させ、自分の議員としての政策実現の道筋がほぼできたことだ」

「2つ目は、私は道志会をつくって若い人を育ててきた。企業も政治も常に若い人を育てる、というのが私の考え方です。自分の元氣なうちに若い人を育てていきたい。そのために、こ

こが引き際だと思った」「3つ目は、長年一緒にやってきた会社の岩崎輝明会長が急逝したことだ。会社やグループのことを考えると、政治に没頭はできないなど……」

札幌JC理事長就任で人生が一変

道見氏は、十勝管内中札内村出身、69歳。帯広商業高校を出て、大蔵省事務官となり東京国税局に配属。昼は国税局に勤務しながら、夜は専修大学へ行き公認会計士を目指した。

中川一郎氏とは縁戚関係にあつたことから、中川氏が福田内閣で大蔵政務次官になったときに、道見氏に対して「大蔵省の人事異動で政務秘書官になれるから、かばん持ちにならないか」と誘われたそう。そのころは政治の世界にはまったく関心がなく、即

座に断つたのだそう。

東京国税局に丸7年在籍したあと、1971年に伯父と道見氏の実兄がやっていた札幌の鉄鋼加工メーカー（北海道建鉄工業）に転じた。経営が苦しくなり、再建に手を貸してくれないかと、伯父と兄に頼まれたものだった。

翌72年に札幌JC（札幌青年会議所）に入ったことが道見氏の人生を大きく変えていく。

1年あとの73年に玄米酵素（当時の社名は北海道酵素）の岩崎輝明氏がJCに入ってきた。会社が近かつたせいもあつてすっかり意気投合、肝胆相照らす仲となっていく。

「運命の出会いだった」と道見氏は述懐する。

岩崎氏は72年に会社を設立したばかり。2人が出会って1年後の74年に、道見氏は玄米酵素の非常勤役員となつていく。

JCのほうでは、84年に道見氏が理事長、岩崎氏が副理事長になった。理事長になったことが、道見氏を政治の道に導いていく。

当時、岩田徳弥氏が札幌JC理事長から道議になつていった。このため、JC内で「理事長経験者から札幌市議も出そう」という機運が盛り上がり、道見氏に白羽の矢が立ったのだ。

85年に北海道建鉄工業を辞め、87年に市議選にチャレンジするも落選。

選挙に落ちた直後から玄米酵素の常勤役員になる。

91年市議選初当選、3期務め、03年4月の札幌市長選に出馬。新人候補が乱立する大乱戦となつたことは周知。

結果は――

上田文雄	17万2512
中尾則幸	16万8474
道見重信	15万9787
秋山孝二	9万7327
坪井善明	7万6045

与党なのに異例の高橋はるみ批判を

07年、道議選に出て当選。現在2期目。

札幌市議時代は政策通として鳴らした。とりわけ、札幌の政調会長として行革の責任者となり、市バス、学校給食など効率の悪い公営事業の廃止・民間委託を軸とする行革案をまとめ、その実行を激しく市に迫り、次々と実現させてきた実績をもつ。

道議になつてからは、腰

を据えて丘珠空港の活性化問題に取り組んできた。

今年の夏から、地方空港間を小型ジェット機で結ぶ静岡の航空会社「フジドリムエアラインズ」が、名古屋の小牧空港と丘珠空港の間でチャーター便を運航することになったが、この誘致運動の事実上の事務局役を務めてきたのが道見氏だった。

昨年の6月の議会質問で「知事は、いつも国の動向を見てとか、他府県の状況を見てとかばかりで、自ら先兵になつて決断をしない。これは行政マンの常識的なやり方だ。行政マンとして高橋はるみは認めるけれど、私は政治家高橋はるみとしては大変不満である、知事のリーダーシップには疑問を呈さざるを得ない」と、与党議員としては異例の知事批判を繰り広げ、大きな波紋を投げかけたことも有名だ。

（干場）

FOR YOUR STYLE,
FOR YOUR SMILE.

あなたのまちで、あなたのそばに。

HOKUSEN CARD

http://www.hokusen.jp

株式会社 ほくせん

本社：札幌市中央区南2条西1丁目 北青ビル
TEL (011) 261-6101

情報を先取り、タブーに挑戦

財界タブー

グロテスクすぎる道の“ゴリ押し”、**道観光振興機構** 2014年7月号
内部対立のすべてを暴く

特集 ASKAの知られざる“北海道時代”
中学から高2まで抱え続けたコンプレックスほか

党再生、野党再編、集团的自衛権…… **海江田万里** (民主党 代表) を直撃
大内全新会長をバックアップ **道経連副会長人事で近藤龍夫の“置き土産”**
どうする **伊藤新吉** (渡島信金 理事長) 函館の名門・加藤組土建の正念場
コンサドーレ札幌の“スゴ腕”GM **三上大勝** が明かした **小野伸二** 獲得の全内幕

黒塗り「北區ガスボンベ事件」
これが犯行声明全文だ!!

